

研究実施のお知らせ

研究課題名：当院で経験した虚血性大腸炎患者様の臨床的検討

研究期間：仙台市立病院倫理審査委員会承認日～2019年11月24日の予定

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成29年5月30日施行)に基づき、匿名化された情報(診療録等)の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

2018年1月から2018年12月まで当院で大腸内視鏡検査を施行し虚血性大腸炎と診断され診療が行われた41名の患者様を対象とします。臨床症状、内視鏡所見、生検病理検査を行った患者様は病理所見を合わせて診断を行いました。便培養で原因菌の検出を認められた方は、感染性腸炎として対象から除外します。

【研究の目的と意義】

虚血性大腸炎は、腹痛、血便、下痢を主徴とする疾患で、血管側因子と腸管側因子が関与し発症するとされます。血管側因子としては動脈硬化、高血圧、糖尿病などが関与し、腸管側因子としては便秘症等の腸管内圧上昇が関与するといわれています。病型としては、一過性型・狭窄型・壊死穿孔型の3型に分類されます。高齢化社会に伴い、血管側因子・腸管側因子ともに頻度が増加し、本邦の虚血性大腸炎発症患者様は増加傾向にあります。当院は救急病院として多数の虚血性大腸炎患者様を診療しており、この点で他の高度専門病院よりも多くの患者様のデータを保有しています。したがって、これらの患者様のデータを後方視的に検討し、その臨床的特徴を明らかにすることは、当院が果たすべき医学的責務のひとつであると考えられます。この認識のもと、本研究では、得られた知見にもとづいて個々の虚血性大腸炎患者様の治療効果や入院期間の予測およびリスク因子を解明することを目的とします。この成果によって、具体的な予防的治療の介入の必要性についてより高精度に判断することが可能となり、これまで以上に的確な診療を提供できるようになることが予想されます。この意味で、本研究には十分な意義があると考えられます。

【研究の方法】

後方視的に電子カルテより病歴を拾い上げ、各種画像を選出します。病理組織所見については病理医と検討のうえ、選出します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報(経過、大腸内視鏡画像、病理組織学的所見)を研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形でを行います。

【研究の実施体制】

この研究は、単施設研究として、以下の研究機関で実施されます。

主任研究者：野村栄樹 仙台市立病院消化器内科

分担研究者:平塚敬士、菊地達也 仙台市立病院消化器内科

【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者様の情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が学会・論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 消化器内科

科部長:菊地達也（当院の研究責任者）

または 医長:野村栄樹、医師:平塚敬士

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話:022-308-7111(代表)